

荒川知子とファミリーアンサンブル ダウン症のリコーダー奏者

ダウン症の障害を持って生まれた荒川知子さんは、現在「すていじ仙台」でケーキやクッキーを作って働きながら全国で演奏活動を続けています。また、7月に九州を襲った「令和2年7月豪雨」で大きな被害を受けた熊本県人吉市では「しあわせの親善大使」も務めていました。

このファミリーアンサンブルは、長女の荒川知子さん、父でフルート講師の荒川健秀さん、母でピアノ教師の荒川幸子さん、兄で元新日本フィルハーモニー交響楽団の首席フルート奏者荒川洋さん、洋さんの奥様でチェリストの荒川絵里子さんという音楽一家で構成しています。



知子さんは小さい頃からご家族の愛情に包まれ、音楽が溢れる家庭でリコーダーの才能を開花させました。はにかみがちな優しい笑顔がとても魅力的です。「みんなしあわせ」や「しあわせのたね」などのCDを発売しています。



豪雨災害をニュースで見た知子さんは、被災者を演奏で慰めたいと、兄とともに演奏した「アメーzingグレイス」をYoutubeにアップしました。

動画では人吉市の義援金受付サイトも紹介されています。

♡ アメーzingグレイス ♡

<https://www.youtube.com/watch?v=9xiGw5mxCQw>

人吉市災害義援金口座

<https://www.city.hitoyoshi.lg.jp/q/aview/173/13466.html>

facebook公開グループ

ポストコロナの合唱活動を考えよう メンバー2千人を超す

宮城で活動する男声合唱団「合唱団パリンカ」指揮者で、小学校教員の千葉敏行さんが運営するfacebook公開グループ『ポストコロナの合唱活動を考えよう』↓が、一時中断のあと再開し、9月26日現在メンバーが2,125人になりました。

学校現場や地域の合唱団において、コロナ禍がやや収まりつつあるものの、果たしてどこまで解禁できるのか悩みは尽きません。ここでは様々な問題が熱く語られています。

<https://www.facebook.com/groups/222840199011862/>

合唱や音楽に関する情報交換に最適の場です。まだ参加されていない方にぜひお勧めしたいサイトです。

歌声教室も人数制限とマスク着用で再開

合唱のみならず歌を歌うことにはまだまだ制限が付きまっています。埼玉県久喜市で活動している歌声教室が使用しているホールも座席間隔を空け、みなさんマスク着用で歌を楽しんでいると読売地方版で紹介されました。

栗橋 歌って健康維持 歌声教室 210人が参加

久喜市の栗橋文化会館（イリス）ホールで「久喜市栗橋公民館事業第1回歌声教室」が9月2日に行われました。同教室は平成18年に旧栗橋町主催の講座を経て発足し、現在は210人が参加しています。会員

講師は田村邦光さんです。仲間は良いもので「ピアノ伴奏は矢島尚江さん」と話しました。入会して7年になる小川真さん(8)は、「歌『海』『ローレライ』『青い山脈』など幅広いジャンルの曲を歌集を見ながら歌います。懐かしさです」と自信をのぞかせます。教室を何よりも歌だけでなく、知らない歌や流行の根岸とも江さん(8)は



距離を置きマスクなどを着用して歌う皆さん

歌声教室の講師は男声合唱団コール・グランツのメンバーでピアニストの田村邦光さんです。歌うことが健康維持やストレス発散、脳の活性化に繋がると世話役を買って出しています。田村さんは、河合孝夫先生(日本音楽発声学会理事、河合孝夫音楽研究所所長・音楽家)と共同で研究されています。